中部人懇通信 No.3

教育行政
職員対象

平成３０年９月１日（土）に、教育行政担当職員及び人権推進員を対象とした中部地区人権教育懇談会を開催しました。今回は（公社）鳥取県人権文化センターが主催している講座と協力しながら研修を進めました。その内容を報告します。

事業説明「鳥取県人権文化センターの取組について」

（公社）鳥取県人権文化センター専任研究員　中江　美紀　さん

人権文化センターの活動の１つに人権啓発推進者の養成を目的とした「人権学習ファシリテーター養成講座」がある。講座は全６回で、前半はワークショップを体験してその特長と留意点を理解するとともに、学習プログラム作りと模擬実践を行う。講座の後半では講座受講生が実際に企業や行政、ＰＴＡの研修に出かけ、ファシリテーターとしてワークショップを実践する。今日がその実践の場である。今後は評価やふり返りを行い、改善点等の協議を行う。

ワークショップ「話してみよう　部落問題」

人権学習ファシリテーター養成講座受講生　鍋島　しのぶ　さん
澤田　真美　さん

１　ウオーミングアップと自己紹介
- 「人権問題（部落問題）の学習は難しい？」など３つの問いに対し、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」のいずれか意思表示をする。

２　部落問題を「知る」か「知らない」かが差別の現実にどのように影響するかを考える。
- 「知ることで改善すること」や「知らずにいることで改善されること」について考える。
- 「知ることで今より悪くなること」や「知らないために悪化すること」について考える。

３　ワークシートに自分の考えを書いた付箋を貼り、グループ内で共有する。

【主な意見】
- 中途半端に知ると差別してしまう。
- 学習すれば差別解消に向けて取り組むことができる。
- 知らなければ、当事者に対して傷つける発言をしてしまう。
- 知らないと、何も意識しないので、差別的なことをしない。

４　他グループのワークシートの説明を聞いて回り、様々な意見があることに気づく。

５　「そっとしておく」ことについてグループで考える。

６　まとめ（ファシリテーター）
- 差別がある社会を変えるためにも地域や職場でなくそうとする取組を続けていくことが大切である。
- 安心して暮らせる社会にするためには、学び続けること、何らかの行動を続けることを一人一人が実践していく。

【参加者の感想より】

○「寝た子を起こすな」論を契機として個人としても業務担当者としても方向性を見いだすことができた。有益な会でした。今後は担当者として教材作りに取り組みたい。

○深く考えることができて楽しかった。社会の中では「うわさ」はよくある。その「うわさ」に対して根拠を問う姿勢をもちたい。

○「寝た子を起こすな」の意識がなぜ、根強く存在しているのかを考えることも大切と感じた。

○小地域懇談会で今日のようなワークショップの手法を取り入れてみたいと思った。やはり、いろいろな人の意見を聞くという点でワークショップは有効であると感じた。

○町内学習会に中学生の参加を呼びかけたり、ワークショップの要素を取り入れたりと他の地区の取組を聞くことができたので有意義だった。

【まとめ】

「そっとしておけば自然と差別がなくなる」という「寝た子を起こすな」という考え方は、今も根強く存在している中で、今回のワークショップは改めて部落問題の根本的解決の方向を問うものでした。参加者の皆さんには、地域での学び合いに今回の研修を活かしていただきたいと思います。